

高齢者の人権を考える〜高齢者虐待について〜

家庭内で起こる高齢者虐待では誰が加害者になるでしょうか

平成16年に厚生労働省が発表した家庭内での高齢者虐待全国実態調査によると、家庭内で起こる高齢者虐待で、誰が加害者になるかを見ると、「息子」が32・1%と最も多く、ついで「息子の配偶者(嫁)」が20・6%、「配偶者」が20・3% (夫11・8%、妻8・5%)、「娘」が16・3%となっています。

かつては家庭内介護は、嫁の仕事とされてきた時代から、息子も家庭内介護に組み込まれていく状況がうかがえます。

3世代同居など多くのにぎやかな家族構成のなかで、高齢者を包み込んだ生活から、家族構成の多様化や労働形態の変化など、社会変化の大きな時代を迎えています。

そうしたなかで、家族内虐待をする人の半数以上が主たる介護者であり、介護疲れや人間関係の複雑化などが背景にあると思われる。

高齢者虐待にはどんなものがあるでしょうか

高齢者への虐待行為には、次のようなものが上げられています。

○身体的虐待

殴る。ける。無理やり食事を口に入れる。薬の過剰な服用。身体拘束など。

○心理的虐待

「役立たず」「死んでしまえ」など言葉による暴力。排泄の失敗などを人前であざ笑う。無視するなど。

○経済的虐待

年金や預貯金から勝手にお金を引き出す。土地や建物の権利証を無断で処分するなど。

○性的虐待

性行為の強要。排泄の失敗などをこらしめるため下半身を裸にして放置するなど。

○介護や世話の放棄、放任

入浴させない。食事や水分を与えない。劣悪な住環境を放置する。医療・介護サービスを制限するなど。

実際には、これらが絡み合って発生している場合が多くあります。

医療経済研究機構による、家庭内における高齢者虐待に関する調査報告書(平成16年)によれば、高齢者虐待の内容(複数回答)は、「心理的虐待」が63・4%、「介護や世話の放棄、放任」が52・4%、「身体的虐待」が50・0%、「経済的虐待」が22・4%、「性的虐待」が1・3%、「無回答」0・4%となっています。

そして、発見時に生命にかかわる危険な状態にあった高齢者が、10・8%に上っています。



高齢者の人権を守る地域づくりに知恵を出し合いましょ

私たちがとって、高齢者問題は、誰もが避けて通れない問題です。でもこれに正面から取り組むことは、なんとなく避けているような感じを受けます。

日本は、急激に高齢社会に突入し、たった24年のハイスピードで進みました。世界にモデルが無い問題と言えます。いろいろな視点から高齢者問題を、本気にとらえる時期になっています。

高齢者の人権をどう守るかという観点で、誰もが安心・安全に暮らせる社会づくりや地域づくりをつくるための知恵を出し合いましょ。

【参考図書】

- ・クイズウルトラ人権100問 解放出版社
- ・人権相談テキストブック 解放出版社